

# Keio Youth Orchestra

## 慶應義塾ユースオーケストラ第2回演奏会

指揮：坂入 健司郎

Kenshiro Sakairi



ピアノ：イェルク・デームス

Jörg Demus



### ～プログラム～

近谷直之：「Paradigm shift」(世界初演)

Naoyuki Chikatani: "Paradigm shift"

シューマン：ピアノ協奏曲イ短調 Op.54

(pf: イェルク・デームス)

Robert Schumann: Konzert für Klavier und Orchester a-Moll Op.54

チャイコフスキー：幻想曲「フランチェスカ・ダ・リミニ」Op.32

Peter Tchaikovsky: "Francesca Da Rimini" Op.32

ストラヴィンスキー：バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)

Igor Stravinsky: "L'Oiseau de feu" (1919)

2011年3月20日(日)

17:30 開場 18:00 開演

ティアラこうとう大ホール

(都営新宿線・東京メトロ半蔵門線 住吉駅より徒歩4分)

チケット料金 2000円 (全席指定)



チケット購入・お問い合わせ

慶應義塾ユースオーケストラ・チケットサービス 080-3526-5045

keio.youth.orchestra@gmail.com

慶應義塾ユースオーケストラ オフィシャルサイト <http://keio-youth.y7.net/>



## 慶應義塾ユースオーケストラ

2008年、慶應義塾創立150年を記念する特別演奏会のために慶應義塾の高校生・大学生を中心として結成されたオーケストラ。総勢約100名による編成。慶應義塾は1901年（明治34年）に日本初の音楽科以外の学生による音楽団体（ワグネル・ソサエティ）を発足させたほか、若杉弘、中村紘子、吉松隆、藤岡幸夫、千住真理子など数々の世界的音楽家を輩出している。慶應義塾創立150年という大きな節目を迎え、これを記念すると共に、これからも慶應義塾が音楽を初めてとする様々な文化的活動に貢献する存在でありつづけることを願い、結成された。

### イェルク・デームス ピアノ



1928年オーストリア生まれ。6歳のとき母の手ほどきでピアノを始め、11歳でウィーン音楽アカデミーに入学し、ピアノと指揮を学ぶ。在学中の14歳の時、ウィーン楽友協会にてデビュー。高校に通う傍ら、ピアノをW.ケルシュバウマーに、オルガンとC.ワルターに、指揮をH.スワロフスキー、J.クリップス、作曲をJ.マルクスに師事。その後51～53年までパリにてY.ナットに師事する。W.ギーゼキング、W.ケンパ、A.B.ミケランジェリ、L.フィッシャーの教えも受ける。

21歳の時、チューリッヒ、ロンドンにて、コンツェルトハウス・カルテット・ウィーンとの共演でデビューコンサートを行い、翌年の南アメリカツアーでは36回のコンサートを行う。53年パリ・サル・カヴォーにてセンセーショナルなデビューを飾った。56年ブゾニ国際コンクール（イタリア、ホルツァー）での優勝を機に、世界各地で演奏活動を開始する。ニューヨークでもデビューし、以来アメリカで毎年のツアー、61年以來、アジア、オーストラリア、日本でも定期的にツアーを行う。ザルツブルク、ウィーン、ルツェルン、モントレー、ニューヨーク、東京など、世界各地の音楽祭にも多く招かれている。H.v.カラヤン、J.クリップス、W.ザヴァリッジュ、小澤征爾などの指揮者との共演も多い。

さらに、歴史的な古楽器の演奏法解釈の権威としても名を馳せ、バッハ作品にみせる解釈、ドビュッシー作品における色彩豊かでの柔軟な表現力、またモーツァルトからシューマンに至るドイツのピアノ曲の伝道師として他の追随を許さず、フランク作品の演奏でも絶大な評価を受けている。

伴奏者としても、E.シュヴァルツコフ、D.フィッシャーニディエスカウ、E.アメリック、P.シュライアー、T.アダムなどから絶大な信頼を受けるほか、J.スーク(Vn)、A.ヤニグロ(Vc)なども多く共演。古楽器への関心を分かちあうP.バドゥラ＝スコダとは、ピアノデュオの演奏会も多く行っている。ブロードウッド、アントン・ヴァルター、コンラート・グラーフなどの貴重な古楽器を入手し、これらの歴史的楽器にふさわしい作品の収録も行っている。ベートーヴェンの生誕200周年にはベートーヴェン・フェスティバル（ボン）にて名器ブロードウッドとコンラート・グラーフで演奏した。ザルツブルク郊外のデームスの拠点「ムゼオ・クリストフォリ」にはピアノの歴史を物語る数々の名器が置かれ、毎夏マスタークラスを行っている。またヨーロッパ、アメリカ、日本などで教育者としても厚い信頼を寄せられている。

350を超えるLP、200を超えるCD、ビデオやDVDは国際的に極めて高い評価を受け、シューマン、ドビュッシーのピアノ全作品、J.S.バッハの平均律、クラヴィア練習曲集、バッハ、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、シューマンのピアノ協奏曲、ウィーン・フィル室内楽アンサンブルとの共演、また歴史的な名盤、フィッシャー＝ディエスカウとのシューベルト「冬の旅」を始め、アメリック、シュライアーなどとの歌曲の録音も数多い。

著書に「演奏解釈の冒険」（Brockhaus Edition 67年）、スコダとの共著「ベートーヴェンのソナタ」（70年）など。作曲にも積極的に取り組み、ヴァイオリンとピアノ、チェロとピアノ、トリオ、ピアノソナタ、歌曲などの作品を発表している。

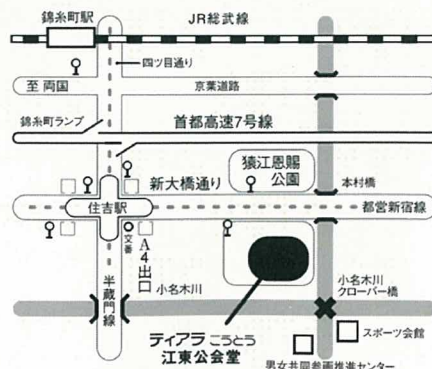
80歳を迎えた08年は12月2日東京のバースデー記念リサイタルに続いて、ウィーン楽友協会でも祝賀コンサートに出演した。

#### 【その他の出来事】

- 1947年 戦後初めてのオーストリア・ピアノ・コンクールで名誉賞受賞
- 1977年 ウィーン・ベートーヴェン協会よりベートーヴェン・リング授与
- 1979年 ウィーン・モーツァルト協会よりモーツァルト・メダル授与
- 1981年 アムハーストの名誉博士号受賞。・1986年 ツウィッカウのシューマン賞を受賞。
- 2006年 オーストリア政府より第一級芸術文化名誉十字勲章授与。
- フランス政府よりレジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ授与。
- 自作オペラ『愚か者と死』を東京とウィーンで世界初演。

### 坂入 健司郎 指揮

1988年5月12日生まれ、神奈川県出身。これまで指揮法を小林研一郎、山本七雄、三河正典、井上道義各氏に、チェロを望月直哉氏に師事。また、モスクワ放送響音楽総監督ウラディーミール・フェドセーエフ、元アルメニア国立放送交響楽団音楽監督井上喜惟各氏と親交深く、指揮のアドバイスをを受け、アシスタントを務める。13歳ではじめて指揮台に立ち、2006年慶應義塾高校ワグネルソサエティオーケストラの正指揮者に就任。2007年3月東京芸術劇場で行われた定期演奏会では「チャイコフスキー：交響曲第4番」をメインとしたプログラムで成功を収め、音楽現代2007年5月号において「クライマックスを作るのが実に上手く、白熱した名演となり未来の巨匠ぶりを存分に発揮していた。」と絶賛される。再び同誌9月号の特集「今、期待の若手指揮者に注目」では、将来を囁かれる新鋭と評される。慶應義塾創立150年記念演奏会ではベルリオズの幻想交響曲に加え、小山裕幾氏をソリストに迎えたモーツァルトのフルート協奏曲等を指揮し、好評を博す。2009年にはユニコーン交響楽団アシスタント・コンダクターに就任、藤岡幸夫氏の副指揮者を務めている。現在、慶應義塾大学経済学部にて在学中。



#### アクセス

#### ティアラこうと 大ホール

（都営新宿線・東京メトロ半蔵門線 住吉駅より徒歩4分）